

令和5年度 武蔵野市環境啓発施設運営会議(第3回) 議事要録

1 日時 令和6年2月21日(水曜日) 午後3時~4時30分

2 場所 むさしのエコreゾート

3 出席者 小澤委員長、小林委員、長島委員、神村委員、村井委員、野村委員、大塚委員

4 議事要録

(1) 長島委員より事例紹介

委員より大学と企業との連携について事例紹介。学生は「参加」より企画運営で育ち、企業・大学・学校をつなぐ継続的な仕組みが有効との紹介があった。

- ・大学生は卒業で地域を離れてしまう。地域活動の継続性をどう担保するか
⇒ (委員) 企業や行政を必ず伴走者として付け、学生に事務局機能も担わせつつ、引き継ぎ書作成や後輩への継承を促すことで、緊張感と責任感を育てている。
- ⇒ (委員) 武蔵野市は昼間人口や企業集積を活かし、企業の人材・資金を施設運営に取り込む余地が大きいのではないか。

(2) 神村委員より事例紹介

学生による社会課題への取組について事例紹介。若者への訴求は、SNS・募集サイト・口コミ等の多面的発信と、参加後1か月の丁寧な関係づくりが重要である。

- ・毎年ボランティアを集める中で、どのように離脱を防ぎ、再参加につなげる方法があるか。
⇒ (委員) 大学サークルだけに依存すると一斉に抜けやすいため、募集経路を複線化することが重要である。
- ⇒ (委員) 特に、近隣在住者や地域との距離が近い人は定着しやすく、困った時にすぐ会える関係性が継続の鍵になる。
- ⇒ (委員) 「毎年イベント当日だけでも歓迎」と門戸を広く保つことで、無理なく関わり続けられる仕組みを意識している。

(3) 令和5年度事業の振り返りについて

(事務局より資料説明) 来館者・参加者は増加し、認知度も向上した。一方で、効果測定やアンケートの実施方法などの課題について説明

- ・「受け手」だけでなく、登録団体や出展市民、庁内関係部署など「出し手」の動きも評

価対象に含めるべきとの指摘があった。

⇒（事務局）市民参加型施設としては本来、実行委員会形式や登録団体主導の運営が理想だと応答し、利用登録は簡便化済みで、利用回数なども今後評価に入れる考えを示した。さらに、環境フェスタは27団体まで拡大したが、会場規模の限界も見え始めているとの説明があった。

(4) 令和6年度の事業予定について

（事務局より資料説明）

- ・環境の学校や Youth 企画、ワークショップ、出前講座、カフェ運営等を改善・拡充予定
参加意欲を受け止める受け皿づくりと試行実施を進める。
- ・環境フェスタは分野ごとのチーム編成や連携会議の再活性化で、団体同士をつなぐ場に
発展させるべきと提案。
- ・また、ものづくり工房でも、廃材集めや仕分けの段階から子どもを巻き込むべきとした。
- ・市民団体の力量は高く、行政は全部を自前で担うのではなく、つなぎ役・調整役に専念
してもよいと後押しした。

(5) その他

（事務局より、新渡戸文化学園と板橋区立エコポリスセンターを視察について報告。）

- ・両施設とも興味深い取り組みがある一方、指定管理や運営体制の苦労や課題も見られ、
有意義であった。むさしのエコ re ゾートの今後の運営に活かしてほしい。